當世信玄記

五

1272
5

1272
5

當世信玄記　五之巻

目録

一　仏の世話と燒捨る反古

附り　長坂支勢が名をれぬ事

高坂彈正　目見れ壺乃事

㊁ 改名を願ひし刀一腰

附り

晴信二度の大酒の事

飯富兵部少輔虎昌の事

㊂ 忠臣を祭る乾の社

附り

晴信は神の因縁信玄と成る事

自然居士夢中抑ぐる事

㊀ 人の世俗を燒き反古

言葉とは〻〻〻

いさ公の内遠よりあづうかくふゝ姫よりて。仰の事も
そむきがたく。御言とそてくるゆゑ。ゆくゝ
そのまれ時信玄とて。たれりのよせんくそうとに。系
是常なりとて。信人さかくしひ。墨と青大角と
ゑのせのと一対わして。そとそるすとそくれて西
よ。後の三月ゑのの信あるよ出合。月はかりひるす
ゞもおきて。仰えせゆくひうあるくもさきと
そうそう人いるめゞさはよるゞれゞ。まそたゞく系を
かくとゞのの人のひしい今の秋月の事ちう。是方
系とおゝてゞいさるよひうれ是ゞ石義あう
いれしはいさゞよく後切てあいそうとバようちれ事

をもそのまれ後ゞ人と日新ゞが方そて信あ系と
うちそゝなゞかゞゝ。ゞ。ゞ。ゞ

ゆるかとせられて時代と市家繁よさでありまし。
はゆるゆはやぞくぞくゆさまるべしまるれど由のこわもと
のみよとつる命ぞうちをみやべしぞよく市兵衛
なるべしとぞいさびよくこうそうされくう友勝きて法
見しぞちべまは一ものよ自害してぞさんふうて
そひとうべさとひそうふこれとの反ぞもと焼すて
てぞよのうる事なしてぞまづ女房とけうとうしぞ力
うて友勝もぞんるに自害とうるる孫よ恩のる
にそうんあるぞ由このあ人もいひぐしぞ山事
すでぞ市兵衛して時代令うて由ぞひとうせうあひ。
友勝人角ぞりせいぞる一物ありしうみちうとぞ民

ちうつがいうう。勝ぞかげ右とぞ市角よひしとぞ人させう。
ちうるあへうあ勝ぞあうとはるうあの市兵衛仕
うぞ市横屋のうどうしうぞ出仕とひくへりせーげぞうとう
よはうしうるうあうて五郎ぞ大角とぞ藤ぞの
おとげぞうるうがうちとうぞ友勝ぞ自害仕うぞ侍人ら
ぞうるびしとりせども牧も市沖めうぞ体ぞきぞ牧私
と市中ようしぞうざる家と濱ぞにうけうるうぞはは
ひくうはぞお四とぞうてうるべきとけうしぞうぞ風ぞまうく
すぞうるしぞ実しうる板源ぞとぞ侍ぞ家人ぞのうい
代あうぞ怒ぞうぞ市ぞへめうぞ出されぞうぞ糸とうるぞ
とぞけるべ時代ぞ市代ぞのうらぞいうて源ぞとはぞ

よめされうばのけいやくとそぴさうづきとくづきされぴはね
動みとりあうをぴ仕ずなくちまきのひとーぴまづくあ人
ぴ仕ぴうね扱時仕ぴのとこ清ぴのものぴ面ぴとせ
りんとうぴ。ゆとうにとべとつぴ。用んぴよちくいた。
いとーぴまづいー書ぴとめうちぴうんの指人とあーむ心
べーとぴ。ゆキうち扱仕ぴとうーうぴ面ぴとゆうち。相
接角へぴいうべだうぴ。家ー仕尻のうんぴい下ぴ手仕兵扱友
動ー出面淡あうて時仕とうて扱ーぴ弟丸ー面ぴ
とうちんとぴうちうひーふぴでれ兵扱自害して。
一味の大角もうれくきべぴ今ハ仕うくゆげりてぴ
仕ぴうやうふあうぴ出動面あうて仕ぴうーうーへ。

扱も出扱友動。ぴんづーうにようーなれ事とすうめ。女のお
ろうさいぴのれ弓兼もなく。ぴぴてとゆぴーうんづーさ。あ
きうふゆんぴくうきく。今日まうて市絶ぴうぴとく熱
紙のうるれぴ。ぴと扱さあうひて次弟丸とぴぴうち
くけーうーひくぴさうべーとぴうんぴくとーうる出ーうー集
ぴ。時仕ぴーふ扱うー扱ゆて。ぴうーとぴうーとうみ
さん仕ぴうも友動大角がううぴとねれぴ。母ハ松ハ
出ーうーんうべきにあうぴ。これまでの市ゆうちぴうも
つてうぴぴーとぴうちーうけゆうひーー市絶うぴんぴうもよ
ろうびうひ。時系に扱ーうんでうーせゆひ。それうれに
中ひうまぴくうーせうーぴ。ゆ日まうとくうんぴうの出ゆ

ようすぐれる美形の女中七人まで時代の市物よ
ってつかうこれと時代ハ母人の市無ことよろこ
びぞ女中とおもふ入ちゐとこのまセゝし。益もと。
し大とるべ。美とうしての者奥よ。市之時さちま
ちゐぐれすぐうてけま

二　改名を形付し刀一腰

領冨者ゆ物ハ閑者の窓ハ門。作ようく祖師と祖。
世路と再よ入ざ所ぶ。ぴごろ世の風変ゆ。ゐ度の市身
おようしぬ。ぬと変及びぴ。市ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。ゐ。
う時代よハ女中とあつめ。河義さい中の市変ハ者ア
推ゐ。ぴづようて清水のさういめ。ぴあう板とけうハ

され。歌のちゐびと市あうさうあうさう事。当一の市角
ぴ。ようとしてうてゐぐ。ぴうくれうも。ぴうく市角
いるうさうべき市るゆあうさうふようて年ゐうようも。
者アゞ者ようせうちう。地ゞて者ようハ市技拍
とトさうてゆくぴ。ぴ者いつうとりのとゞうゆゞ也。
う者ようう市者ハれ者ゆる事と市るうしうれゞ。
うう細ハ。世界民ちう者ハれ。ぴゞく厩拍ようゆ
ようぴ。そのうハ拍ハゞ。郎商と作ようゆ
者と大切よねゞちうゆハちう。私の動商作ハ。民
ちうようさ者うそハゞ。己ゞ市者ハと市せハ五郎者
のゆ市と作せうようハ非道。ちうれで市ゐハとあう

どう。已ぐたちまちと舞ようけて。百一ぶまをと仕るべき
うと。非人の舞れよりあれとつけ。手れもあるぬ民たつ
と。手綱はしりて動高仕うぬ。たつ義のはくうこぬる
をぬ。ぬ。さをいへど。民たつ。つ。つ。舞れのあるよ。盗人同
おのうさ名とうて切後仕うぬ。おとれくもゆだ
めくざされるべ。民たつ。ぬ。手ぬ。大酒ぬ。とを。
出嘴をおうるべきあよ。ゆもとれば市新屋ぐあうう。一出
の紙刺とうけをのゆ。ぬ。ぬ。ぬ。市用ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
それ一四とぬとぬ切ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
もてぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

どもとゝ。そのうへに酒ともの〻給いざるけるよへ。
給毎又い勝毎とりてゝ。ろうさんとあるうぶ。給毎のく
ふゝぢ〻このせられて。大酒を飲よ歩ゞていとをゝ。
水と酒とゝ分て。世と〻えとゝ。しうるゝ。女七人より
わに。ゝ。百姓へ入れぬ〻へ。ゝ。ゝれとゝんゆうすゝ。
けよぶてゝ。ゝ。民たゝつゞ持ゝよゝ。紙酒
とのひていひて。一酒ゝ。ゝいとゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
とゝ。ゝ。ゝ。ゝ。言のゝ。ゝ。ゝ。ゝ。世界民
たゝつゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
内侯とゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
に。年ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

作ゝんゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
と。民たゝつゞ遠ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
民たゝつと。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

らうどぱ市屋とうんどん入れくがそのまれ幸た
ハ。元人とそこの大あるとぱづくなりまもせ。
今ハ時代へ海より市まと住るとぱどとろへ
てゆける。ゆるり扱いさゆゆしの市ハ商ハ
ゆにあどぱ。海ハてどくく市ゆハ入どぱ。ぱ民ろ
ハの市手ととなり。市手ととげさせまれ。扱ハ
力ハ。渡ゆりハにゆづるものもいりひ。屋敷のはるよ
ゆり。民ろつへつろはれもるどぱと力と時代へも
ゆゆせべ時代又民ろつにろへゆゆ。民ろつ出ハと
まと信ゆてゆのどゆくふゆにさゆ。元を時代
どゆり市屋どて。元屋のくへ力のまくへるるゆり

て。牧もなるどにゆ。ゆとあげ。をのゆ。金ハとゆるへ
まゆどてくゆりゆり

三 忠臣と裏ハ乾ノ社

家ハろどハの外に。家ハとハ福信あり。年ごろ
ハ出よりゆゆ。佛法の物ハゆゆ。指ハ家ハ
乃人なり。ゆろ信ようろどハの兄ハ兄弟
の中。ハつまどゆくど。部中もこつハりまて。ゆりハ
くに家撰して。雅をゆりおまくるほときにり。
やどて南ハに来りゆひ。ゆ法ハどハようりんゆこぱて
ゆハの年ハ。ハゆけゆりれど。源光元。このハ学文業
明れゆ。さやて行ゆを。ハ出られよりなるべきゆ。

すいるまゆ〜ろ〜ぽ〜あるよい山〜ぞ男たり。長信〜ぐん
信信〜ぽ〜ぽとなってはぬと。次郎よ〜ろうてあさすべ〜ぽん
勝作とうしたな〜ぷ〜ぽ〜ぞ。ぽ〜ぞ〜ぽのぞ〜ろのうちにいと。三衣と紙
すてゆひろれぢ。ぽんぢいたさに怪び。次郎丸とよび
ぬ〜。叔父ごの見ろぽんて。ぽ〜ぽ〜ぽいるぞ〜べきこの山
幸ぢ。ぽ〜ぽ〜ぽ〜ぞ〜ぞ〜ぞ

ひけさうとゆづるぞ。さいぜんわざとてうひ
ゝう。こゝ衣を次郎ゝこゝをせうひ。ゝあうゝて行ぞよ
ち紙ゝ。ぞぶのけよとゝろてよ行ゝ待ゝ。我ま
つゝ。ゑ那ゝのぞみゝ。ぐんぞゝといひもいつ
ろ。ぶゝ月待よをあゝ。ぶ家ゑと次郎ゝつゞせ
んとゝゝろゝ。ぞの弓ゑのりゝへ。ぶゝ丸ゞゝ
ち。ぶゑさを我ちゝうれゝぞゝぶのづゝ弓ゑ
も物ゝ。ゝ成ゝ。ゝれゝ待よの時仕ゝ。ゝみゝ
ゝゝ。ぶ。ゝとゝゝんゝ。ゝのゝゝゝ
ひゝゞ。ゝ大弓ゝゝゝを。我ゝゝゝけゞ
ゝゝ。ぶゝ次郎ハ月ゞ出よゝ。ゝ。弓ゝ

いてとなりとぢこのゆんでゐ人をそ
ぐ〳〵ぢ何も出ざりりさて平生いち殿様
庭の中あへ出てあひぢ丸義そーごろ出家のを
ありて品傷は度まりしと奉ゆ判髪いてをせい。
中無候時様へは出とも出ゆづりりさるべーとみさば。
それハ一限ものけるくねーじ。元までけるーとて
うあひいてをせーい時様がいのちにさりりあせはま
きーあ海平合戦のちろーいも時様よりゆづり
とさせんぐーあ。ざて海命よい物ーりーりと強人
のーくあてそりせーちり。ちれで時様強とりろ
て。栄のごくに海公入とあいんぐーぢるいをさ

あれとあーりとぢこるる井ゆがあまりくのゆづ
ひ親のるとあむべーさゆーいてをべきぞ。は報
をーりさるべーと中義海をされりまべ平生も
いよくなりぶりりまちりぢりぢるとりてへ
りまりりぢ実よさんわる比時様のよりとかーり。
ゆざりいへこーぢ丸中ゆんぢ。ろ強心あやーき
様人の傷とりりまはーて。立ゆいくりりるる。
時様ちゆんまりて。相礼の者と出様をべき
この様ゆて中りりとに出れで時様中りん
ぢ。これくれたりは注師人後のはをいりるゆ
紀ありて南中へりみりされーて。指傷ハ敬東

ふつ。ぴりの伝ゐとまろらへ。自然長士とりしの。
信濃紗師のわりゝ。富士のふもとに隠れ居よ。
ぎの人よあつ。ぴりぐりゝ。庄司貴と。君にさ
あげりさんろゐ入玉りせ。ゝそ。爰中乃弘彩。
時代に弓弦の矢房河ふ。飯富民ちつい国三郎ら森
来のゝ。ぴりゝ。ぴりゝ。ぴりゝ。ぴりゝ。ぴりゝ。ぴりゝ。
生れさせ。ひゝ。師よかゝ。ゝとろゐ。長士の物ふこ
ろ合せて出陣あまこバ。ぴいゝよも一対よ。ゆぶれゐ。
和も弟代のろゐ。ぴ。我ゐぐゝふゝぐさゝ。富物
現のゐりゝと。ぴぐゝ。ねゝ。ひゝ。ゐ。飯富民ちつ
い。図三郎ゝてゐ。ぴりゝと。ぴれぐゝ。世のゐ信ゐ

ろゝ。ふ物のべりゝぐど。我長ろのいゐゐのすゝれ。
社といゐ。集ぐ方義とろゝ。ゝんゝ。ぴゝ。ぴゝ。ぴゝ。
とりゝ。ゝ。扱自然長士い。ゐ法ゐゝ名信ゆ。か
ゐ弟代のゐゝ。ぴぐゐゐゝと。大ゐ。よ
信拓。ぴゐゐゐ師。ゐ。ゐ。我ゐ年
ゝ。ゐ。ゐ。ゐ

とゝふゝ〳〵どゝ大酒と棒ふじゝゝとこのまぬすぢゝろ
ゝろ〳〵年ゝゝろけまた法師〳〵。民ゝゝつが大義の志と
わどゝすゝゝろゝゝくゝもあれ歌よゝゝ来ゝゝゝ甲冑と武士。
ゝとゝゝて雛をゝゝゝゝゝ正路の紙ゝゝゝゝゝゝよゝゝゝゝゝ
まゝゝゝゝゝゝ